

<白金標準、依然とペナントレンジからの離脱を待つ・・・>



(出所：オアシス)

トランプ大統領は鉄鋼とアルミニウムに対する 25%の関税を課すと発言し、発動は 3 月 12 日になると発表している。また自動車に対する関税を 4 月 2 日に課すと発表している。特に週末には小売売上高が前月の上方修正された +0.7%からカリフォルニアの大規模な火災や寒波の影響を受けて -0.9%まで大きく低下するなど、消費マインドが低下している。そのため週末は株や白金、銅価格に非鉄金属など幅広く景気商品が売られている。しかし WPIC は白金の需給では 2024 年以降は供給不足が続き、2028 年までに地上在庫がなくなる可能性をレポートで指摘するなど需給要因は強気を示唆する状態は続いている。またレポートでは一律的な関税が賦課されていない今は、プラチナ市場への波及は限定的と見られているが、しかし関税は米国内のメタル価格を一時的に押し上げるにしても、より広い視点からはプラチナ需要と価格にはマイナスの影響をもたらす可能性があるとは指摘している。ただ白金標準先物は、昨年 12 月以降ペナントレンジを形成しており、このレンジの離脱に備えるのが妥当に思え、4700 円以下は強気のエントリーチャンスに思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が切り下げ、**シグナル** は切り上げている。RCI では**短期**が切り下げながら、**長期**は上昇している。そのためオシレーターは強気を維持しており、狭いレンジ取引からの離脱を待つ状況が続くと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,100,000 円(2025 年 2 月 17 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2025 年 2 月 17 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>